

INDEX

P.1

・「PRIDE指標2022」においてゴールド認定を獲得しました
・「セクシュアルマイノリティ学生への配慮・対応ガイド（教職員向け）」第5版を発行しました

P.2

・ボリス・学生交流公開講座「共生社会の実現に向けて～障がい者のはたらく場から考える～」
・2022年度活動報告

P.3

・公開講演会「一人ひとりの『選択』が認められ、尊重される社会に」
・2022年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会「ダイバーシティ推進が日本経済の未来を支えるージェンダーの視点からー」
・育児・介護支援情報についてはWebサイトを！

P.4

・**連載** ワークライフバランス挑戦中！⑦
育児と仕事を「楽しむ」日々に至るまで
・学内バリアフリー対応最新情報！（UDマップ第7版発行）

Topics

「PRIDE指標2022」においてゴールド認定を獲得しました

2022年11月10日、早稲田大学のLGBTQ+に関する取組みが、任意団体「work with Pride」が策定する職場におけるLGBTQ+への取組みの評価指標「PRIDE指標2022」において、「ゴールド認定」を獲得しました。

本学は創立以来、多様な人々に広く門戸を開いてきました。創立150周年を迎える2032年に向けた中長期計画である「Waseda Vision 150」においては、教育・研究の質を飛躍的に向上させ、世界に貢献する大学であり続けることを目指しています。

とりわけ近年は、教育・研究・就労の場におけるダイバーシティ推進という観点から、さらなる発展を目指し、数々の課題に取り組んでまいりました。その一環として、2020年から毎年、「PRIDE指標」への申請を行ってきました。PRIDE指標に示された項目の達成の度合いを確認する過程で、LGBTQ+の方々にとって働きやすい職場づくりに対する認識を深めることができました。



▲授賞式会場にて表彰状を手に（本学ダイバーシティ推進室長 石田京子法学学術院教授）

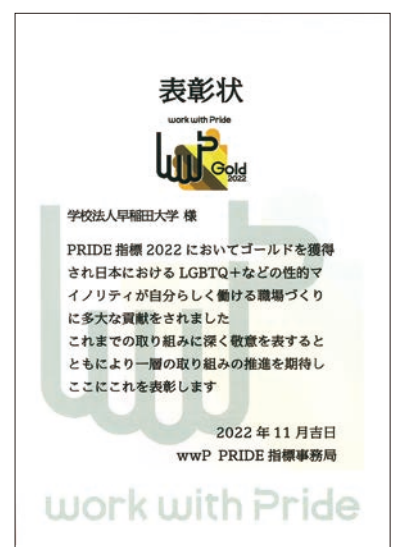
2020年、2021年と2年連続で「シルバー認定」が続く中、最高位の「ゴールド認定」を獲得できない理由、すなわち本学における課題として、「教職員の同性パートナーの存在を視野に入れた人事制度の整備が達成されていないこと」が浮き彫りになってきました。

それを受け、2021年度には上記の課題解決に向けた取組みの一環として、人事部人事課・給与厚生課が中心となって、仕事と育児・介護の両立支援、人事諸制度におけるパートナー（注）

への適用拡大を図る改革案を策定しました。それらが2022年4月1日より施行されたこととともない、このたびの「ゴールド認定」という形で結実させることができました。

今後本学では、性的指向や性自認にかかわらず、多様な人々が共に協働する公平で公正な職場環境の構築のために、ダイバーシティの尊重・推進に努めてまいります。

（注）どのような性別同士であるかを問わず、教職員等と事実上婚姻と同様の事情にあると大学が認めた者を「パートナー」とし、教職員の配偶者と同様に制度を適用する。



▲表彰状

PRIDE指標とは：

2016年、任意団体「work with Pride」によって初めて策定された職場におけるLGBTQ+への取組みに係る評価指標。

Policy：行動宣言

Representation：当事者コミュニティ

Inspiration：啓発活動

Development：人事制度・プログラム

Engagement/Empowerment：社会貢献・渉外活動

の5つの指標に対して、それぞれ複数の評価項目が設定され、所定の基準を満たすことにより1点ずつ加算され、5点（満点）でゴールド、4点でシルバー、3点でブロンズと認定。

「セクシュアルマイノリティ学生への配慮・対応ガイド（教職員向け）」第5版を発行しました

多様な学生が安心して学業・大学生活に専念できるよう、ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深め、当事者の気持ちに寄り添い、適切な対応を行うために「セクシュアルマイノリティ学生への配慮・対応ガイド」を教職員向けに発行しています。2023年3月、第5版を発行しましたのでご案内いたします。

（詳細は <https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/sexual-minority/> よりご覧いただけます）

内容に関するご意見等は、ダイバーシティ推進室までご連絡ください。



ポラリス・学生交流公開講座 「共生社会の実現にむけて～障がい者のはたらく場から考える～」

2022年12月16日、本学の特例子会社^(注)である株式会社早稲田大学ポラリスの社員5名をゲストに、社会科学総合学院の寺尾範野准教授（「比較近代社会思想2」担当）をファシリテーターに招き、標記の公開講座をオンライン開催し、本学学生・教職員あわせて68名の方々にご参加いただきました。

同社伴マネージャーによる事業概要説明および仕事の様子の動画視聴の後、障がいのあるスタッフそれぞれから、適性や能力を生かした業務内容や取り組み姿勢、就労に至る経緯や日常生活などが語られました。質疑応答が活発に行われ、「障がい者と社会との共生のあり方や社会的意義」を身近なこととして考える機会となりました。

参加者からは「多様な仕事内容に驚かされ、自分の中で障がい者を枠に当てはめて考えていたことを反省した」、「障がいの特性に合わせた業

務調整やトレーニング、社員それぞれのやりがいと向上心とが組み合わさってパフォーマンスの高さが実現されているのだと思う」、「社員を対等に労働者として尊重している様子から、新しい平等や多様性のかたちを見た」、「大学として初めて特例子会社を設立し、障がいのある方々へ仕事の場を提供し、インクルーシブ社会を先導する集団に所属していることを学生として誇らしく感じた」、「障がいのある方の社会的な自立や雇用を当たり前に変えていくための理解が不可欠で、本日のお話は社会的なバリアを取り除く第一歩の活動であり、非常に感銘を受けた」などの声が寄せられました。

(注) 障がい者の雇用促進および安定就労を目的として事業主（大学）が設立した子会社



▲公開講座の様子（上段左より寺尾範野准教授（社会科学総合学院）、ポラリス社員の皆さん、伴マネージャー、T.Uさん）



▲会場のポラリス社員の皆さん

2022年度活動報告

氏名は50音順、◎委員長 ○副委員長 ◆部会長 ◇副部会長
(掲載の委員・部会委員は2022年12月1日現在)

ダイバーシティ推進委員会

任期満了に伴い、2022年9月21日嘱任の委員および部会委員による新体制がスタートしました。

2022年4月から新たに、教職員と事実上婚姻と同様の事情にある「パートナー」やその親族に対して、両立支援・人事諸制度の適用を開始しました。また11月には、「PRIDE指標2022」において本学初の「ゴールド認定」を獲得しました。

委員 秋葉丈志（学生ダイバーシティセンター長／国際学院准教授）・東玲奈（国際学院准教授）・麻生享志（理事（ダイバーシティ推進、国際広報、国際募金、学生寮）／国際学院教授）・天野紀明（理事（職員人事、労務））・安藤隆之（人事部調査役（ダイバーシティ推進担当））・◎石田京子（法学学院教授）・エルウッド ケイト（国際部長／商学院教授）・大坪恭子（人事部長）・大場浩之（教務部長／法学学院教授）・岡崎成光（レジデンスセンター課長）・金子太郎（総務部長）・菅野重樹（理工学院長／理工学院教授）・草柳千早（文学学院教授）・佐久間由梨（教育・総合科学学院教授）・高松寿夫（文学学院長／文学学院教授）・○谷口真美（商学院教授）・玉田正樹（留学センター事務長）・○西出総行（学生ダイバーシティセンター障がい学生支援担当課長）・藤本浩志（人間科学学院教授）・松岡宏高（スポーツ科学学院院长／スポーツ科学学院教授）・三木基司（学生部事務副部長兼学生ダイバーシティセンター課長）・矢内義顯（学生部長／商学院教授）・横山将義（商学院長／商学院教授）

教育研修部会

ダイバーシティ関連科目の受講促進に向けた取組み、WSCメンバーズ基金講座の提供、学院・学生ダイバーシティセンター・関連会社等との連携によるイベント等を介した教育啓発活動を予定しており実施できました。女性研究者メンター制度では申請があったキャリア初期研究者に対してメンターによる個別支援を行いました。

部会委員 朝日透（理工学院教授）・◇東玲奈（国際学院准教授）・宇羽野聡（総務部総務課長）・杉森絵里子（人間科学学院准教授）・高山あかり（理工学院准教授）・野原佳名子（文化推進部調査役兼演劇博物館事務長）・橋田朋子（理工学院教授）・◆三木基司（学生部事務副部長兼学生ダイバーシティセンター課長）・森山至貴（文学学院准教授）・矢口徹也（教育・総合科学学院教授）・ローリー ゲイ（法学学院教授）

制度環境部会

ベビーシッター派遣事業割引券の電子化へ対応し、電子割引券の発行業務を開始しました。障がいのある教職員への支援を行い、就労環境を整備しました。学内バリアフリー関連工事の最新情報やエレベーター・だれでもトイレの数の推移グラフ等をWebサイトで公表しました。

部会委員 岡崎成光（レジデンスセンター課長）・久保山尚英（学生生活課長）・鈴木理恵子（法学学院教授）・陳天璽（国際学院教授）・◆藤本浩志（人間科学学院教授）・◇松尾亜弓（総務部副部長兼環境安全担当課長兼カーボンニュートラル社会研究教育センター調査役（キャンパス連携担当））・村田晶子（文学学院教授）

広報調査部会

「さんかくニュース」No.28、29 を企画・編集し発行しました。No.28 では、2022年9月の新体制発足にともない麻生享志ダイバーシティ推進担当理事と石田京子ダイバーシティ推進室長の挨拶文を掲載し、また本学ICC（異文化交流センター）の取組みについても紹介しました。

部会委員 ◇尾崎慶吾（エクステンションセンター事務長兼社会人教育事業室課長）・◆草柳千早（文学学院教授）・小西麻知子（図書館調査役）・末松大（国際部国際課職員）・玉田正樹（留学センター事務長）・山内暁（商学院教授）

公開講演会「一人ひとりの『選択』が認められ、尊重される社会に」

2022年10月28日、聴覚障害の当事者かつ支援者であり、二児の子育てをしながら研究者として活躍されている志磨村早紀氏（東京大学 先端科学技術研究センター学術専門職員）をお招きし、人間科学学術院・藤本浩志教授による司会のもと公開講演会を行い、学内外から71名の方々にご参加いただきました。



▲聴覚障がいのある参加者に配慮し口元の見えるマスクを着用して講演する志磨村氏

志磨村氏は、ご自身の子どもの頃に経験した「聞こえ」にまつわるエピソードの紹介からはじめられ、高校卒業まで聴覚障がいのある人に出会った経験がなく、そのため自分の聞こえにくさを客観的にとらえる機会もなくうまく言語化できなかったという経験等を語られました。また本学の学部時代は支援の必要性に自分で気づくとともに、卒業後は言語聴覚士の資格を活かして支援者として働いた経験が話されました。現在

は大学院で学びながら子育て、そして障がいのある学生支援にも力を入れており、講演のテーマである「選択」に関連して「理想を言えば、その選択肢がなぜその人にとって必要なのか、当事者が負担になるほど周りに説明しなくてもいい社会になってほしい」「『選択』を提供する側の皆さんには、なぜこの人がこの選択をするのか、どういうところに難しさがあるのかを想像してもらえればと思います」「自分の価値観にこだわりすぎずに、相手とのコミュニケーションを柔軟に取れる人がどんどん増えるといいなと考えています」と述べ、講演を締めくくられました。多くの参加者が多様な個性を尊重し共生社会の実現に向けて自ら考える機会となりました。



▲会場の様子

2022年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会 「ダイバーシティ推進が日本経済の未来を支えるージェンダーの視点からー」

2022年12月7日、男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会「ダイバーシティ推進が日本経済の未来を支えるージェンダーの視点からー」を開催しました。講師には、元内閣府男女共同参画局長で、現在は本学の非常勤講師も務める池永肇恵氏をお招きし、



▲講演中の池永肇恵氏

法学学術院・弓削尚子教授による司会のもと進行しました。講演は教室での対面とオンライン配信によるハイフレックス形式で行い、学内外から35名の参加がありました。

池永氏はまず、ダイバーシティ推進の意義のひとつとして「イノベーションを促す」という点を挙げられました。多様な視点や発想が集集合知として高まり、その結果として組織・企業活動でこれまでなかったものが生み出される、と具体的な事例を挙げながら解説されました。同時に、多様性は「リスクの回避」ともなることにも触れつつ、「働き方改革による能力発揮・生産性向上という観点から個人の能力を活かすことにつながり、それがダイナミックな企業活動を促進する」とし、ダイバーシティ推進が組織・個人の成長に寄与すると強調されました。

さらに「ジェンダー平等・女性活躍はダイバーシティの中核でありシンボルと位置づけられる。これすら実現できない組織では、どんなダイバーシティ推進の実現も難しい」と述べられ、ジェンダー平等についての現状・問題点の共有と、それらを改善していくための具体的な提言をお話されました。

その後の質疑応答において、会場とオンライン双方から寄せられる質問一つひとつに池永氏から丁寧な回答があり、活発な議論が交わられました。

育児・介護支援情報についてはWebサイトを！

本学にはワークライフバランスの実現に向けて、出産・育児・介護等のライフイベントと仕事や研究の両立を支援する制度があります。

最新情報

- ・2023年度からの授業時間割変更（100分授業導入による変更）にともない、2023年4月1日より「学生・教職員用託児室」および「授乳室」の開室時間を拡大します。
- ・仕事と介護の両立支援情報として、厚生労働省提供のオンラインコンテンツ「仕事と介護の両立支援解説動画」や介護に関するインターネット上の有用なサイトへのリンク集をご用意しています。

詳細についてはダイバーシティ推進室Webサイトをご覧ください。
<https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/caring/>



育児と仕事を「楽しむ」日々に至るまで

国際教養学部 准教授 福山 佑子

子どもが生まれてから3年は頭が働かなくなるという、同僚の先生の言葉を裏付けるかのように、乳児期には不可避となる寝不足と、日々成長していく子どもに対応するため、常に脳の情報処理に大量のアップデートが必要とされる状況は、私だけで



▲同僚のエミリー・オーマン先生、ボリーナ・デスヤニチェンコ先生と一緒に休日子連れランチ

なく夫（同じく大学教員で育児・家事負担は夫婦均等かつ全業務相互代替可能）の頭と体力を疲弊させています。

とはいえ、怒涛の乳児期を越え、子どもが3歳くらいになると、大学の制度や保育園などの社会からのサポートに加え、コロナ禍で進んだりリモートワークにより、この連載のタイトルにある「挑戦」という言葉ほどなにかに挑んでいる感覚のないまま、育児と仕事の両方が多少はスムーズに回りながら進むようになってきました。

この4年を振り返ってみると、まず産休から復帰直後の2019年4月に担当したイタリア史の演習の授業には、偶然にも離乳食を販売する会社を立ち上げようとしていた学生がおり、開発中の商品のモニターをさせてもらったおかげで無事に離乳食期を乗り越えられるという（早稲田らしい?）幸運に大いに助けられました。その後、子どもが歩きはじめて目が離せなくなり、イヤイヤ期にも突入する時期の2019年9月から半年は、別の大学に務めている夫が特別研究期間を取得して私の負担を軽減してくれたことに加え、1歳以下の子どもを持つ教員は授業負担が1コマ軽減されるという大学の制度も活用させてもらうなど、偶然と職場の制度の両方に支えられて可処分時間が少ない時期を乗り越えることができました。



▲戸山の丘に生えているガマの穂で遊ぶ子ども。コロナが流行していた時期、人の少ない大学のキャンパスは絶好の遊び場所でした

特にここ数年は職場に育児中の同僚が増え、出勤するたびに互いの研究室に顔を出してはたわいもない出来事を話すというのが、日々の楽しみ

になっています。お互いの子どもの成長を喜び、体調不良を心配し、時折発生する子どもに由来する睡眠不足を労りつつも、研究費への応募や授業の運営について話すなど、育児をしつつ教育研究に打ち込む仲間が職場に複数いるという環境は、産後の茫洋とした状態から社会復帰するのを助けてくれました。とはいえ同僚の先生から聞いたとおり、両親ともに頭が働かない数年間がありました（現在も?）、育児で疲弊しきった時期にも、いずれ再び頭が働くようになるはずと希望を持たせたことは、精神の安定に大きく作用しました。

これまでの日々で一番大変だったのは、やはり新型コロナの流行によりオンライン授業が導入された2020年4月からの半年で、連日の長時間労働もありほとんど記憶が残っていません。どうかこの時期を乗り切れたのは、在宅勤務は「登園自粛」という区の通達にもかかわらず、1歳児とともに両親がそれぞれオンライン授業をすることの困難さを理解して受け入れてくれた保育園のおかげでした。普段より少人数の手厚い保育に加え、最年少だったために先生や他の園児に大いにかわいがってもらった子どもが毎日を楽しそうに過ごしてくれるのは、過酷な日々の数少ない癒やしでした。

いわゆる小学1年生の壁やこれから直面する介護のことなど、これからも仕事と生活のバランスに悩むことがあるのは確実ですし、現在の生活は職場での配慮や社会の諸制度、子ども本人と家族の健康や偶然に支えられた薄氷の上のものでしかないと感じています。とはいえ、育児の副産物として、今後さまざまな困難が生じてもなんとかなるかもしれないという見通しを持てるようになったこと、生活する上で不確定要因が多いことにより一日一日を大事にしようという意識を強く持てるようになったことが、研究や教育を含め、現在を楽しめていることに繋がっている気がします。



▲大隈講堂前で同僚のお子さんと一緒に自転車遊び

福山 佑子（ふくやま ゆうこ）

1983年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業後、大学院文学研究科にて博士（文学）を取得。早稲田大学文化構想学部助手、日本学術振興会特別研究員（PD）を経て現職。専門は古代ローマ史。夫（大学教員）、子ども（4歳）の3人家族。

INFORMATION

学内バリアフリー対応最新情報!

2023年3月に最新情報を掲載した「早稲田大学UD（ユニバーサルデザイン）マップ」（第7版）を発行し、Webサイトへの掲載、各箇所への配布を行いました。適宜、ご利用ください。

<https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/accessibility-map/>

- ・早稲田キャンパス6号館エレベーター（北側1基・南側1基）新設
- ・早稲田キャンパス8号館3～6F/18号館B1～B2F「だれでもトイレ」自動扉化
- ・西早稲田キャンパス55号館～西早稲田駅間に点字ブロック敷設
- ・所沢キャンパス100号館B棟4F「だれでもトイレ」自動扉化



編集・発行

早稲田大学ダイバーシティ推進室

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

TEL: 03-5286-9871 FAX: 03-5286-1429

e-mail: diversity@list.waseda.jpURL: <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

Web

